



目標—指導—評価の一体化のための学習評価



# 小学校音楽のポイント



小学校音楽における単元の学習評価について、単元の目標及び「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成から評価の総括までの一連の流れを具体的な事例をもとに説明します。

## ① 題材の目標、評価規準を作成する流れ

【Step1】 まず、4つの「内容のまとまり」から題材で扱う分野に応じて選択します。

小学校音楽科における「内容のまとまり」は、以下の4つ。

- I 「A表現」(1) 歌唱及び〔共通事項〕(1)
- II 「A表現」(2) 器楽及び〔共通事項〕(1)
- III 「A表現」(3) 音楽づくり及び〔共通事項〕(1)
- IV 「B鑑賞」(1) 及び〔共通事項〕(1)

題材名	内容のまとまり
曲のとくちょうをとらえて表現しよう 「とんび」「エーデルワイス」	〔第3学年及び第4学年〕 ・「A表現」(1) 歌唱及び〔共通事項〕(1) ・「A表現」(2) 器楽及び〔共通事項〕(1)

【Step2】 学習指導要領「第3学年及び第4学年の目標及び内容」の記載事項を確認します。  
(ここでは内容のまとまり「A表現」(1) 歌唱及び〔共通事項〕(1)を例に紹介します。)

【音楽科における事項の示し方】

全項目共通で

ア…思考力, 判断力, 表現力等に関する内容 イ…知識に関する内容 ウ…技能に関する内容 について示されている。

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。 〔共通事項〕 イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。 ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。 (ア) 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う技能 (イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能 (ウ) お互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能	ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。 〔共通事項〕 ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。	進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようにする態度を養う。 ※内容には、「学びに向かう力, 人間性等」について示されていないことから、該当学年の目標(3)を参考にする。

【Step3】 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。

知識・技能については

- ① 事項にある「次の(ア)及び(イ)の」や「次の(ア)から(ウ)までの」の部分には、(ア)から(ウ)までの事項と置き換え作成する。
- ② 文末を「～している。」と変更する。
- ※「B鑑賞」においては、技能の設定はない。

思考・判断・表現については

- 【共通事項】アの文末を「～考え」と変更し、事項アの後半部分「曲の特徴を捉えた～」を組み合わせ、文末を「～している」と変更して作成する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構成や歌詞の内容との関わりについて <u>気付いている</u> 。【知識】 ・思いや意図に合った表現をするために必要な範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う技能を <u>身に付けている</u> 。【技能】 ・思いや意図にあった表現をするために必要な呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けている。【技能】 ・思いや意図に合った表現をするために必要なお互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けている。【技能】	・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて <u>考え</u> 、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 ※必要に応じて「各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨」学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関する部分を用いて作成する。

※『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』の巻末資料に「内容のまとまりごとの評価規準(例)」が記載されています。

「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」より選択して書き換える

**[Step4] 「題材の目標」を作成します。**

題材名 「曲のとくちょうをとらえて表現しよう」

内容のまとめり [第3学年及び第4学年]「A表現」(1)歌唱及び[共通事項](1)、「A表現」(2)器楽及び[共通事項](1)

**○題材の目標**

- (1) 「とんび」、「エーデルワイス」の曲想と音楽の構造との関わりなどについて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。
- (2) 「とんび」、「エーデルワイス」の旋律、フレーズ、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもつ。
- (3) 曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組み、日本のうたやリコーダーに親しむ。

**[Step5] 題材の評価規準を作成します。**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① <b>【技】</b> 思いや意図に合った表現をするために必要な呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。(歌唱) ② <b>【知】</b> 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。(歌唱、器楽) ③ <b>【技】</b> リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な音色や響きに気を付けて、リコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。	① <b>【思】</b> 旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと <u>感じ取ったこととの関わり</u> について考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌唱) ② <b>【思】</b> 旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと <u>感じ取ったこととの関わり</u> について考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)	① <b>【態】</b> 曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱、器楽)

内容のまとめりの評価規準（[共通事項]アの冒頭）「音楽を形作っている要素」を、音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係などから、その題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる要素を適切に選択して置き換える。

内容のまとめりの評価規準（事項ウ）の文末を扱う分野に応じて「歌っている」「演奏している」「音楽をつくっている」より選択して置き換える。

**②指導と評価の計画を立てる**

観点別の学習状況を記録に残す場面等を精選するためには、題材の中で適切に評価を実施できるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、評価する場面や方法等を意図的・計画的に考えておくことが重要です。記録に残さない場面でも教師の指導改善や児童の学習改善に活かすために、児童の学習状況を確認することは重要です。

指導と評価の計画（全5時間）

時間	◎ねらい ○学習活動 ・学習活動	知・技	思	態
1	◎「とんび」の曲の特徴を捉えた表現を工夫して歌う。(1・2時間共通) ○「とんび」の歌詞の表す様子や旋律の反復など曲の特徴を捉える。 ・範唱を聴いて感じたことを発表する。 ・歌詞を読んだり、とんびが空を舞う写真を見たりしながら、歌詞の表す様子や雰囲気を <u>感じ取る</u> 。 ・リズムや音程に気を付けて、楽譜を見ながら歌詞唱する。 ・曲の特徴的なところをワークシートに書いて発表する。 ・歌詞の表す様子を思い浮かべながら歌う。 ○「とんび」の曲の特徴を捉えて表現を工夫する。 ・第3フレーズ(9~12小節)の「ピンヨロー」の部分について、とんびが鳴きながら飛ぶ様子や、旋律の反復などの特徴を捉えて表現を工夫する。 ・第1時で学習した表現を生かして、全員で「とんび」を歌う。			
2	○旋律、フレーズ、反復、変化などをよりどころにして、「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。 ・前時を振り返り、第3フレーズの「ピンジロー」の部分について表現を工夫して歌う。 ・歌いながら、旋律の動きに合わせて手を動かす。 ・歌いながら第1、2、4フレーズの旋律の反復や、第3フレーズでの変化について気付いたことをワークシートに書く。 ○「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意図をもつ。 ・第1、2、4フレーズと第3フレーズの動きの違いに着目して考えたり歌ったりする。 ○第1・2時で学習したことを生かし、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。	① <b>【技】</b>	① <b>【思】</b>	

全員の学習状況を記録に残す場面

3	<p>◎「エーデルワイス」の曲の特徴を捉えた表現を工夫してリコーダーを演奏する。(3~5時間共通)</p> <p>○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーで旋律を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の特徴を捉えながら、リコーダーの範奏を聴く。</li> <li>・3拍子の拍のまとまりを捉えて体を動かしたり、楽譜を見ながら階名唱をしたりする。</li> <li>・範奏を聴いたり楽譜を見たりしながら、リコーダーで旋律を演奏する。</li> </ul> <p>○運指や音色に気を付けてリコーダーを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運指に気を付けて曲全体を演奏する。</li> <li>・音色や響きに気を付けて、適切な息の強さやタンギングで演奏する。</li> </ul>			
4	<p>○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーの表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「とんび」での学習を振り返りながら、「エーデルワイス」の曲の特徴への気付きを深める。</li> <li>・第3フレーズ(17~24小節)について、曲想の変化を捉えて表現を工夫する。</li> </ul>	②知		
5	<p>○前時までの学習を基に、グループごとに、「エーデルワイス」の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図に合った表現をするために必要な、リコーダーの演奏の仕方に関する知識と技能を身に付けてリコーダーを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2フレーズ(9~16小節)が再び現れるという反復など、音楽の仕組みを捉えて表現を工夫する。</li> <li>・旋律の動きにふさわしい息の強さやタンギングに気を付けて演奏する。</li> </ul> <p>○グループごとに、表現を工夫した「エーデルワイス」の演奏を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫した点を紹介しながら発表する。</li> <li>・各グループの発表を聴き、工夫が表れていたところについて話し合ったり、その工夫を取り入れて全体で演奏したりする。</li> </ul>	全員の学習状況を記録に残す場面 ③知技	②思	①態

### ③「どのような姿を見取ることができればいいのか」評価規準を見童の姿で捉える

#### 知識・技能

音楽科における「知識」は楽譜を記したワークシートに記述した内容などで評価することが考えられます。



「技能」はグループごとに歌ったり、演奏したりする場面をつくり、演奏の聴取から評価したり、グループ練習の過程や発表の際の演奏の聴取から評価したりすることが考えられます。また、個人やペア、グループでの活動の際に、部分的にフレーズを取り出して聴取するなど、学習形態を工夫し、実態に合った方法で評価することも大切です。

**Point** 【知識】旋律の共通点や違いに気づき、それを感じ取ったことや想像したことと結び付けてワークシート等を書くことができているか。

【技能】適切な息の強さやタンギング、運指などとリコーダーの音色との関わりについて気付いたことを生かして演奏できているか。また、旋律のまとまりを考えながら息継ぎをしたり、フレーズの中で音が途切れないように気を付けて演奏したりできているか。

#### 「十分満足できる」状況(A)と評価した例

第1、2、4フレーズの旋律の共通点や第3フレーズが他の部分と違っていることに気付き、なめらかに演奏したり、歯切れの良い感じを出すためにタンギングに気を付けて演奏したりできたことから「十分満足できる」状況と評価。

「とんび」を歌った時に工夫したことを生かして、どのようにリコーダーをえんそうするか楽譜に書き、その理由を下に書きましょう。

実際のワークシートでは、エーデルワイスの9小節目から16小節目までの楽譜が入ります。

(上の段は)音と音をつなげるように演奏します。

実際のワークシートでは、エーデルワイスの17小節目から24小節目までの楽譜が入ります。

(下の段は)はずむような感じで演奏します。

理由は2だん目までは「とんび」の前半と同じように、4小せつで上がって下がるせんりつがくりかえしているから、4小せつのせんりつのまとまりを大事にして、音と音をつなげるようにふこうと思いました。そして「とんび」と同じように3だん目で感じが変わるから、ふき方を変えるようにします。

## 思考・判断・表現

「思考力、判断力、表現力等」は授業中に発揮するものですので、授業中の発言や話し合いなどの活動の様子、楽譜を記したワークシートに記述した内容、演奏の聴取等から評価の情報を収集します。



**Point** 音楽を形づくっている要素を聴き取り、すでに習得している知識を生かし、「どのように歌うか」「どのように演奏するか」について思いや意図を持っているか

### 「十分満足できる」状況(A)と評価した例

1段目と2段目は上がったたり下がったりする旋律の動きで、とんびがゆったり飛んでいる感じがします。



(第3フレーズの)「ピンヨロー」の部分は、とんびが鳴きながら近付いてきたり、遠ざかってきたりして飛んでいるようで、歌っていて面白いです。

第1、2、4フレーズの上下する旋律の動きが、とんびがゆったりと飛ぶ様子をイメージさせるなど、音楽のよさや面白さを生み出している音楽を形づくっている要素の働きに着目して考えています。また、第3フレーズの「ピンヨロー」の部分では、旋律の反復などの特徴を捉えて表現を工夫し、とんびが鳴きながら近付いてきたり去っていったりする様子を表そうとするなど、音楽を形づくっている要素を聴き取り、表現したい思いや意図をもっているため「十分満足できる」状況(A)と評価。

## 主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」については、行動観察を中心に、ある場面に限定して実施するのではなく、題材を通じて行い、継続的に学習状況を把握し学習改善や指導改善に生かすようにする一方で、学習状況を記録に残す場面については、最後にのみ設定し、学習の振り返りの記述の内容を加味して評価していきます。

### 【行動観察】

- ・発言の内容に見られる学習内容への興味
- ・友達の発言に対する反応
- ・歌っている時の表情や体の動き
- ・歌声の聴取
- ・グループにおいて表現の工夫に取り組んでいる時の様子
- ・リコーダーを演奏している時の行動の観察 など

### Point

「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしているか。粘り強い取組を行う中で、自ら学習を調整しようとしているか。



### 「努力を要する」状況(C)と判断されそうな児童に対して

観察によって「努力を要する」状況(C)と判断されそうな児童の学習状況を継続的に把握し、学習の改善に向けて丁寧に児童に働きかけることが必要不可欠です。その際、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」の両方を見取り、どちらに課題があるかを把握し、指導の改善に生かすようにします。

例えば、「自らの学習を調整しようとする側面」に課題が見られた場合、適宜、「十分満足できる」状況(A)と判断される児童の学習状況を他の児童へのモデルとして紹介するなどし、自らの学習を調整しようとしていけるようにすることが考えられます。

指導に際しては、学習の調整に向けた取組のプロセスには、児童一人一人の特性があることから、特定の型に沿った学習の進め方を一律に指導することのないよう配慮することが必要です。

## ④記録に残す評価の総括方法について

単元の評価計画に基づき、それぞれの評価の観点における評価規準に従って評価を実施し、観点別に評価を総括します。

総括する場合、「各評価を同等に扱って評価する」考え方や「評価に重点を置いて評価する」考え方があります。

重点を置く場合は、歌唱及び器楽の両分野にわたって評価を行う場合や、知識と技能の両方の内容を対象とする場合などが考えられます。また、題材の終末により重点を置く場合も考えられます。

本題材の「主体的に学習に取り組む態度」については、学習内容に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりしているかどうかについて継続的に見取るようにし、学習状況を記録に残す場面は題材の最後だけに設定しているため、総括は不要です。

### 総括の流れ

### 総括の考え方の例

2つの評価を同等に扱って総括する場合(事例の「思考・判断・表現」)

- Aと判断する場合
- ・Aが1個以上(ただし、もう1個がCではない)
- Cと判断する場合
- ・両方ともC
- Bと判断する場合
- ・上記以外の全て

3つの評価の内、2つの評価に重点を置いて総括する場合(事例の「知識・技能」)

- Aと判断する場合
- ・Aが1個以上(ただし、重点の評価規準がCでない)
- Cと判断する場合
- ・Cが2個以上(ただし、重点の評価規準がAでない)
- Bと判断する場合
- ・上記以外の全て